

科学史・技術史関連科目の開講状況に関する調査・集計

(中間報告・2)

2017年4月5日

日本科学史学会 75周年事業委員長 杉本舞

日本科学史学会 75周年事業委員 隠岐さや香

75周年事業の一環として行った「科学史・技術史関連科目の開講状況に関する調査」について、2016年4月24日から2016年8月3日にWebフォームを通じて得た回答のうち、自由記述項目についての簡単な集計結果を報告する（パソコンの不調等によりWebフォームで回答できず、調査担当者宛に電子メールおよび郵送で回答を送付した2名の情報を含む）。また、本調査で情報提供のあった授業名リストも挙げる。

なお、最終的な調査報告は、後日『科学史研究』および日本科学史学会ウェブサイト上で発表する予定である。

目次

科学史・技術史関連科目の開講状況に関する調査・集計（中間報告・2）	1
1. 項目「科学史・技術史などに関連する授業が高等教育でどのような意義を持つかについて、お考えがあればお寄せください」について	2
1.1 文理を超えた市民的教養としての重要性	2
1.2 理系の学生にとっての重要性	3
1.3 文系の学生にとっての重要性	3
1.4 教師の育成における役割	3
1.5 その他	3
2. 項目「授業担当者にお尋ねします。科学史・技術史などに関連する授業の運営について、問題を感じる点などがあればお寄せください。授業内容、カリキュラムなど、どのような側面についてでもけっこうです。」について	4
2.1 教える上での問題	4
2.2 大学制度における科学史・技術史の位置付け	5
2.3 科学史研究と現代に必要な科学史教育との接続	5
2.4 その他	5
3. 項目「科学史・技術史教育に関して、日本科学史学会への要望などがあればお答えください。」について	6

3.1	教材に関する要望.....	6
3.2	教育実践の共有に関する要望.....	6
3.3	他学会・他分野との連携に関する要望.....	7
3.4	調査やその継続・拡大に関する要望.....	8
3.5	政府や機関への働きかけ・提言に関する要望.....	8
3.6	その他.....	9
4.	項目「本調査について、改善点などお気づきのことがあれば、お答えください。」について.....	10
5.	Web フォームで情報提供のあった授業科目名一覧.....	13
5.1	国立大学.....	13
5.2	公立大学.....	14
5.3	私立大学.....	14
5.4	高等専門学校.....	15
5.5	その他.....	16

1. 項目「科学史・技術史などに関連する授業が高等教育でどのような意義を持つかについて、お考えがあればお寄せください」について

88名から回答があった。以下、記述された内容から主要な論点を整理して列挙する。

1.1 文理を超えた市民的教養 としての重要性

- ・科学の歴史性を理解し、今ある価値観を相対化する
- ・科学・技術と社会・文化の相互作用を理解する
- ・科学の形成される経緯を理解する
- ・市民としての科学への批判意識と科学への信頼を持たせる
- ・科学と非科学の境界について検討させることができる
- ・現実社会や生活と科学・技術との接点を認識させることができる
- ・物質的文明・文化としての技術への理解は必要
- ・社会における望ましい技術のあり方を考えるために必要
- ・人間社会および人類の進化を深部から把握できる
- ・未来に対する長期的展望を持つことができる
- ・イノベーティブな発想を持つため過去を知る必要がある
- ・知的な社会人としての素養を身につけることができる（人格陶冶）
- ・科学・技術と権力（国家および資本主義）との関係を理解する
- ・専門性に囚われない視点を育てる

- ・科学・技術の本質を理解し、研究倫理を身につけるために必要
- ・社会、人文、自然科学がどのような発想で学問をするかを理解できる
- ・文系、理系という枠を超えた学問というものについて理解できる
- ・現代社会の問題を理解するために必要
 - 経済・産業を理解するため科学技術史は必要
 - 環境問題の要因や対策を考えるために必須
 - トランスサイエンス問題を考えるために必要
 - 倫理的問題の理解・考察に不可欠

1.2 理系の学生にとっての重要性

- ・論文において研究史をまとめるノウハウを身につけるのに役立つ
- ・科学理論の深化と発展の歴史を知ることによって自分の分野に対する見通しを持つことができる
- ・科学の中立性に対する素朴な信頼の問題を認識させる
- ・自分の分野の歴史は教養として大事
- ・理工系学問の社会的意義を理解できる
- ・自らの置かれた立場を客観視することができるようになる
- ・人文・社会系学問の視点を知る機会を与える
- ・歴史的知識一般の習得に役立つ
- ・入門教育として役立つ
- ・専門をある程度終えた後、視野を広げるために役立つ

1.3 文系の学生にとっての重要性

- ・科学・技術がどのように社会を変えてきたのかを認識させる
- ・理系への親しみをもち必要最低限の科学リテラシーを育てる
- ・人社系の専門教育（歴史、社会学、人類学…）においても科学技術史との連携・交流を必要とする課目がある

1.4 教師の育成における役割

- ・公式や定理の羅列に留まらず学生の興味関心を引き出す教育が出来る教師を育てる
 - 情報提供：米国では、数学の教員免許取得の際、州によっては、数学史が必修とされている

1.5 その他

- ・科学技術史の専門教育としての意義と、一般教養としての意義は別である
- ・また、下記の文献該当部分にある内容が自らの考える「意義」に近いとした回答もあった。

日本学術会議史学委員会史学分野の参照基準検討分科会「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 歴史学分野」日本学術会議、2014年9月9日、10-12頁
URL: <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h140909.pdf> (閲覧: 2017年3月24日)

2. 項目「授業担当者にお尋ねします。科学史・技術史などに関連する授業の運営について、問題を感じる点などがあればお寄せください。授業内容、カリキュラムなど、どのような側面についてでもけっこうです。」について

78名から回答があった。以下、記述された内容から主要な論点を整理して列挙する。

2.1 教える上での問題

■ 教材不足

- ・安価（たとえば1000円以下）な教科書がほしい
- ・多分野からみてスタンダードとなる文献リストや授業案が見つげづらい
- ・20世紀以降のテキストに適切なものがない
- ・図像・映像教材の乏しさ

■ 科学史は教える側にも教わる側にも要求する前提知識のハードルが高い

- ・高校までの科学・技術もしくは歴史についての理解不足が近年目立つため授業が困難
- ・教育する側の戸惑いと提案
 - 自身の専門性と「科学史一般」の授業との間にギャップがあり、一般の歴史教育のように授業内容を細分化できればそれにこしたことはない（例:「19世紀までの科学史」）
 - 幅広い領域をカバーするため授業や専門領域のネットワーク化が必要である
 - 授業内容の専門家（科学史家・技術史家同士）によるFDの機会があるとよい

■ 昨今の学生のメンタリティ問題

- ・学生の意欲を喚起することが困難
- ・留学生と日本人とで関心の高さに違いがある（技術史）
- ・トピックだけで文系の学生には敬遠されがちである
- ・学生のメンタリティの変化（歴史への無関心、いまある科学・技術への依存）

■ 教育法についての悩み

- ・「科学史」という名称ではない授業における科学史の比率について悩む

- ・エンターテインメント的な要素が強くなってしまふ
- ・授業の一部でのみ教えているので単純化した歴史を教える

2.2 大学制度における科学史・技術史の位置付け

■ 科学史・技術史関連科目のあり方への不満・危機感

- ・科学史が非常勤講師をたよりに運営されている大学が増えている現状に危機感がある
- ・科学史が専門分野として認知されないため、不適切な教員が科学の歴史を担当している現状がある
 - ・講義数減少、閉鎖の危機を感じる
 - ・開講数は多いが人材不足（近畿地方）
 - ・教養で大人数授業になりがち
 - ・周囲の教員（主に理工系）の無理解・無関心がある
 - ・JABEE 認証への対応など他の目的のためついでに教えられている
 - ・時間数の少なさ
 - 理科教育で実験再現などを行うため歴史教育に時間を割くのが難しい
 - 知的訓練に十分な時間がなく、知識の紹介で終わらない授業が難しい

2.3 科学史研究と現代に必要な科学史教育との接続

■ 科学史研究が日本の現状に向き合える教育内容を提供出来ているか

- ・メディアやポピュラーカルチャーが伝える科学技術情報と批判的に向き合う研究が少ないため、そうした情報しか持たない文系学生に科学技術者の実践のつながりを伝えるのが難しい
- ・大都市圏における特定の大学の卒業生のみが関わるような問題設定が多い

2.4 その他

- ・環境教育の枠組みなので科学史・技術史による問題意識の喚起が容易であり特に問題は感じていない
- ・日本学術会議のテキスト『科学の健全な発展のために』（大学指定）にある、実証主義に関する記述には困っている

3. 項目「科学史・技術史教育に関して、日本科学史学会への要望などがあればお答えください。」について

63名から回答があった。以下、主要な論点ごとに記述内容をそのまま列挙する。なお「とくになし」といった回答、調査担当者への謝辞などについては省略した。

3.1 教材に関する要望

・教員向けには、授業で使うことのできる素材集をつくり、共有できるようにする。学生向けには、「読書案内」や「調べ物ガイド」をつくる。

・科学史、技術史の教養レベルの教科書を編集する。

・近年の科学技術の進歩にまで及んだ本等（毎年追加型）を出版してほしい。

・関連資料に関するデータベースの整理

・科学史科目のパッケージ化を進めるべきだと思う。

・日本の理科教育史、西洋の科学史などをわかりやすく時系列にまとめた解説書があるとありがたい。

・科学技術がいかに政治経済を変革してきたかについて焦点を当てた特集などが組まれるなら、興味深い。

・信頼できる詳細な通史があったら助かります。例えばガリレオやニュートンといった必ず出てくるような人の取り組んだ問題、解決プロセス、公刊、後世への影響といった重要な点を押さえているものがあれば、授業時に参照できて助かると思います。

・科学史・技術史の専門家ではないが、授業を担当する機会を持つ教師（大学、中高等学校を含む）に向けた指導用の参考書を編纂できると良いと考えている。

3.2 教育実践の共有に関する要望

・シラバス集を発行してほしい

・よい教育事例などあれば共有していただけるとありがたいです

- ・魅力的な授業を教えてください
- ・各教員の工夫している点などが共有され互いに向上できるといいかもしれない。
- ・科学史教育、技術史教育に関する、継続的な情報交換の場、シンポジウム開催など。
- ・年会などで特徴的なシラバスについて発表、討論する機会があればよいのでは。
- ・科学史・技術史教育は各教員がいろいろと工夫しているだろうが、その具体的な内容は（教科書出版などが実現しない限り）なかなか知り得ない。シラバスなどでも細かなところはわからない。難しいと思うが、そのような具体的な内容（材料）そのものについて情報交換や参観などできる機会があればうれしい。
- ・科学史担当教員のデータベースを公開していただけると、講義の組み立ての参考になり助かります。
- ・標準化を図るのではなく、多様なあり方で進めることができるような、面白く新しい方法などを考え、提案提示してほしい。

3.3 他学会・他分野との連携に関する要望

- ・科学史学会が科学史教育についてご検討されているのと同じように、科学教育・理科教育関連学会の方にも、科学史を研究・実践課題としている者が（多くはないものの）おりますので、今以上に情報交換や共同研究などが進むとより望ましいと考えます。
- ・高大連携と大学・大学院での高度教養教育における科学史・技術史教育について、今後ますます、会員相互および他学会や教育現場との連携が図られることを望みます。
- ・今回のアンケートのお知らせで、初めて貴学会の存在を知りました。後進のためにも、産業界との関わりを持ち、産業界においても有用な人材の育成を進めて頂けたらと思います。
- ・科学史学会が技術史も扱うのは無理があると思っています。本当は技術史学会の設立が望まれていると思っています。今のところ技術史教育学会が技術史そのものの研究をしていると思っています。
- ・日本科学史学会における類似する学会との違い、特定大学及び理科系教員以外が学問領域

に入りがたい印象を持ちます。

- ・理・工・農・医・看・・・他分野の学会と、何かしらのテーマで1日だけの共同開催学会を行うという事は無理でも、年に1回はシンポジウムなどを1日かけてやってもらえたら、刺激的だと思う。

- ・理科教育の中で科学史の学習は意義深く重要な内容です。これからの理科教育により一層科学史が取り入れられるようご活躍を祈念しております。

- ・科学史・技術史の普及・啓蒙という観点からも、初等中等教育に関わる先生方にもっと積極的にアピールすることが望ましい。そのためにも、教育担当の部署を設けてはどうか。

3.4 調査やその継続・拡大に関する要望

- ・関係者のご尽力に感謝いたします。継続的に調査を続けていただけたら幸いです。

- ・重要な取り組みだと思っておりますので、成果を期待しております。

- ・こうした調査による基礎資料の作成は大変重要です。

- ・科学史・技術史研究者養成の課題について本格的に調査してほしい。

- ・学会として、現在の科学史・技術史授業の大学（小中高・博物館・市民大学等含む）での実態調査を綿密・継続的に行い、高等教育内容発展で、一般教養・自然科学概論科目としての科学技術史の意義を訴え、各大学での授業解消の中止・補強の声明を学会として出すべきと考えます。これは、大学科学史系講座卒業者の雇用拡大の条件ともなります。

3.5 政府や機関への働きかけ・提言に関する要望

- ・コマ数を増大させるよう、大学と文部科学省、そして日本社会全体に働きかけていただきたい。

- ・もっと大学内のポスト拡大のために動いてほしい。

- ・科学史、技術史が抱えている問題を分析し、高等教育のみならず高校教育に対してのなんらかの提言を提起していただきたい。

- ・科学史・技術史教育の重要性を、様々な機会を通じてアピールしてほしい。
- ・具体的にその意義を啓蒙する方策の検討をお願いします
- ・医学史の大学教育への制度化ができないのは、残念である。
- ・社会に対する発信が不足しているので、アウトリーチを積極的に行うこと。

3.6 その他

・科学史学校に加えて、科学入門のような、授業や講演とは違った切り口での、学生や児童生徒向けの講座があるとよい。

・数学で言えば、ヨーロッパと日本とで歴史研究が離れすぎている印象を受ける。

・科研課題で、各大学の科学史系科目のシラバスの調査を行ったが、学生のレベルその他の外的な条件以前に、そもそも科学史を教えられるのか、担当者の素養に疑問を感じるものを何件か見つけた。その中には科学史学会の会員、それも学会内でよく名前を見かける人物も含まれている。科学史学会会員の、基礎学力の保証をするべきだと思う。

・研究者の育成。科学史研究者の層(特に 20 世紀以降の科学を研究している研究者の層)が薄くなっているような気がする。

・私はあまり活発に科学史学会は活動はしていませんが、科学史教育を大学教育に活用することで、学生の歴史的知識、科学社会的な知識の向上を目指しています。2、3度この観点で学会発表した事もありますが、科学史学会の雰囲気は、総じて特定分野を狭く深くという研究が多く、科学史の教育への活用という観点では共感できませんでした。私は教養教育に深く関わっておりますが、昨今の大学の不祥事や産業界のニーズからも教養ある大学生の育成は進んでのぞまれています。かつては〇〇史という分野はポストがないと言われてきましたが、科学技術史に関してはあながちそうでもないと思われる節もあります。独法化以後、ポストも場合によっては大学独自で用意できる体制になってきたと考えます。研究者の皆さんにも意識改革が必要ですが、科学史学会が教育に今一度光を当てて議論していたければ良いかなと考えています。長文失礼しました。

・自分自身の課題ですが、一般教育の授業を担当する立場であっても常に専門分野の歴史について質の高い研究を行えるような環境を整えたいと思います。

4. 項目「本調査について、改善点などお気づきのことがあれば、お答えください。」について

57名から回答があった。以下、記述内容をそのまま列挙する。なお「とくになし」といった回答については省略した。

- ・「大学などでの授業情報」のところの説明欄にタイポ：「2016年度の状況をお答えください」。あと最初のほうで文末に「。」が二つ続いていたところがありました。

- ・この手の科目は「例外」が多いので、個々の講義について、自由記述欄があるといいと思う。

- ・以前は通年の講義だったものが学期ごとになったので、6回も同じような事を記入しなくてはならなくなった。将来4学期制になったら、12回も記入する事になるのかも。もう少し簡略化できないのでしょうか。

- ・画面が固まるときが多々ある。

- ・回答し易いでした。敢えていうと、途中までの回答でも保存ができるといいですね。（できるのかも知れないが、そうならば予めそのように言ってくれればと始めやすい。）

- ・回答項目が少し多いような気が致します。選別されると、今後回答者の負担が減り、回答数も増加するかと存じます。また、自由記述欄を多く設けてくださっているのは大変ありがたいのですが、「何かあればお答えください」という形式よりも、問いかけを具体化して頂いた方が、回答しやすいと思われまます(たとえば、「従来より科学技術史教育の実践において〇〇という困難が指摘されていますが、この点について考えをお聞かせください」といった設問形式であれば、より回答しやすくなるのではないのでしょうか)。

- ・学士課程（低年次）、学士課程（高年次）、大学院などに、受講者のレベルを分けるとよい。

- ・記入等が煩雑で、授業担当者でなくてはわからないことが多く、各大学のシラバスをそれぞれで調査して、担当者に直接アンケートを要請すべきであると思う。

- ・こういう項目があることがはじめから見えていたならば、私が2ページ前に書いたことはここに書いたのですが、それも見えない解答欄設計なのだ、ということで、このページ設計が不細工という私の意見は設計者ご自身もご了解いただけるのではないかと思います。

- ・教員の確保、予算についての大学執行役員の意識調査も重要
- ・具体的に今後どのように進みなにを着地点にするのかが良くわかりませんので、そのあたりの検討もお願いします
- ・現在は現職を離れ非常勤の身の上のため詳細について回答できませんでしたが、過去に担当した科目（高等教育機関または学校）についての設問であれば、もう少し具体的な内容で回答できました。
- ・現在行われている授業を網羅的に調査するというのと、授業の課題とは分けて調査すべきではないかと思います。
- ・最初名前などの文字を入力するときに、表示されないという欠点がありました（当方firefox47.0）。おそらく、他の方々の中にも類似した問題点から回答をなされない方も多いのではないかと思料されます。
- ・受講者数を尋ねる設問があったが、クラス分割している場合、ひとクラスの人数なのか、全クラス合計の人数なのか分からなかった。私は全クラス合計の人数で回答した。
- ・授業タイプのリストに科学哲学を加えていただければと思います。科学史を主なテーマとしない授業の場合、具体的にどういう科学的テーマをあつかうのか、という質問が来るかなと思っていたのですがありませんでしたね。興味ないのなら別にいいですが。
- ・授業の具体的な内容に関する質問がもっとある方がよいと思います。
- ・授業担当者を問う質問が分かりにくかった。
- ・授業内容のところに自由記述欄があると有り難い。（担当者氏名のところに書き込んでおきました）
- ・専任と非常勤で分けて記入すべき。全体に冗長。
- ・途中でやめて、そこからやり直すことができないのがつらいですね。
- ・同じ講義を複数担当しているので、すべての科目一度に入力できるフォーマットの方が回答しやすいと思いました。

・特にありません。強いて言えば、ここまで大規模な調査をされた問題意識がどこにあったのかを知りたく思います。

・日本教育科学会を通じて知った今回のアンケートで貴学会の活動を知ることができた。

・複数の講義と、複数の学校の講義を同じ枠内で書いたのではどの程度実情が伝わっているか心配です。

・文章を入力するタイプの回答だけでなく、選択肢を設けてクリックするだけの回答を増やすことで回答率をあげることができるのではないかと思います。また一時保存機能があればさらに回答し易いのではないかと考えます。

・本回答のように、前学期と後学期で同じ授業を開講している大学はあるだろうから、その選択肢もあって良いように思った。

・特にありませんが、2～3年に一度学会として継続的に調査・集計・分析し、学会年総会特設シンポを企画してゆくと、現状認識の深化、共通理解の支店、改善方法の有力な手段提示の方法・政策になると思われる

・ひらがながおおくてよみやすい。

・ほぼ自画自賛のようですが、すごく回答しやすいフォームになっていると思います。

・調査にご尽力ありがとうございます。

・調査にせよ、結果にせよ、広く一般社会に発信できるようにしていくべき。SNSの利用がすぐに思いつくが、多にもあるならご検討いただきたい。

・調査実施に感謝します。回答しやすいフォームでした。

・科学史として講義をしているわけではなく、理科概論の内容に関する科学史や日本の理科教育史を教師として理科を教える上で必要であると考えて講義に取り入れている。科学史を単独で講義をするのであれば教養としての学びではないか思います。

- ・簡単に答えられて素晴らしいです
- ・興味深い調査だと感じ、回答してみました。結果が知りたいです。
- ・理系学部における科学史の重要性を再認識させるためには、このような調査は重要と思います。よろしくお願いいたします。
- ・回答がたいへん遅くなり、申し訳ありません。
- ・貴重な調査であると思います。結果のご発表をお待ちいたしております。

5. Web フォームで情報提供のあった授業科目名一覧

授業科目名はすべて情報提供者の記述通りである。同じ大学において同一科目名で内容や受講者の異なる授業の情報提供があった分についても、そのまま授業科目名を列挙した。

5.1 国立大学

【秋田大学】技術史 【大阪大学】工学倫理、科学技術社会論基礎、現代社会を読み解く、科学史・科学論講義、池島プロジェクト、科学史・科学論講義、現代哲学演習、現代生命科学の基礎、科学技術と文化特定演習、科学技術と文化 【お茶の水女子大学】生物学基礎実験 【茨城大学】科学史、科学と倫理 【岩手大学】科学と技術の歴史 【岡山大学】医学史 【香川大学】初等理科教育法（ロ）、初等理科教育法（イ）、理科教育特論Ⅰ、学校防災論 【九州大学】科学の歴史、社会学入門（エネルギー・原子力）、科学技術政策、エネルギー政策論 【九州工業大学】科学史、科学技術の社会史 【京都大学】生物学の哲学、特殊講義（基礎現代文化学系 48）、科学哲学（講義）、科学史入門Ⅰ、科学史入門Ⅱ、科学史演習Ⅱ、科学史特殊講義Ⅱ、科学史特殊講義Ⅰ、科学史演習Ⅰ、農業・農村史、社会経済史、農学原論 【京都工芸繊維大学】科学史 【群馬大学】科学と技術—歴史と発達— 【神戸大学】統計学の哲学、科学技術と倫理 【島根大学】経済史 【電気通信大学】科学としての文化、自然科学的世界像 【東京大学】科学技術史特論Ⅳ、科学史、科学技術史演習、科学技術史演習、科学史、科学技術思想 【東京工業大学】科学史 C、科学史 A、科学史 B、技術史 B、技術史 C、技術史 A、科学技術倫理 A、科学技術倫理 B、科学技術倫理 C 【東京農工大学】科学史 【東北大学】基礎ゼミ、科学史Ⅱ、科学史Ⅰ、哲学・倫理学 【徳島大学】技術者と倫理 【名古屋大学】科学技術とジェンダー、科学・技術の哲学、科学技術史、市場経済と社会、社会思想史、社会科学の歴史 【名古屋工業大学】科学技術史、科学情報論、科学・技術史特論、自動車工学概論 【奈良教育大学】自然科学史 【奈良女子大

学】科学史 【兵庫教育大学】生物学 【広島大学】技術史 A、技術史 B、核時代の科学と社会、比較技術史、公害史、現代技術論演習、科学と倫理、科学と人間、科学史 A、科学史 B、科学と宗教 【福井大学】技術者倫理と社会的責任 【北海道大学】サイエンスを再演する（科学史入門）、倫理学、生命環境倫理学、科学技術史特論、科学技術と社会システム特論 I、科学技術への視座—研究不正問題をめぐって 【三重大学】科学史科学論 A、自然科学概論／科学技術の歴史、現代学理解特殊講義／科学技術と社会、自然科学概論／科学技術の歴史、自然科学概論／科学技術の歴史、現代科学理解特殊講義／科学技術と社会、現代科学理解特殊講義／科学技術と社会 【宮崎大学】自然科学の考え方 【室蘭工業大学】科学と倫理 【山梨大学】科学技術政策論、科学技術開発史特論

5.2 公立大学

【会津大学】科学史【大阪市立大学】技術論、技術史 【大阪府立大学】科学と文化、科学リテラシー特論、科学の思想、西洋思想文化研究 2 A、科学の歴史、研究公正 A、西洋思想文化研究 2 B、研究公正 【岐阜県立看護大学】科学史 【京都府立医科大学】医学史 【公立鳥取環境大学】科学技術史 【首都大学東京】科学史 B 【福岡県立大学】科学史 【福岡女子大学】科学論

5.3 私立大学

【青山学院大学】技術史 B、文化としての科学・技術 B、文化としての科学・技術 A、技術史 A、科学・技術の視点 【麻布大学】科学技術論 【追手門学院大学】科学技術史 1、科学技術史 2 【大阪経済大学】科学史、自然科学概論 【大阪芸術大学】自然科学史 【大阪工業大学】現代技術と産業、現代技術と特許 【大阪産業大学】科学技術史 【金沢工業大学】科学技術と社会（電気社会論） 【関西大学】経営史、ビッグ・ビジネス、情報技術の現代史、技術史 1、技術史 2、現代科学の展開、現代科学の展開、現代科学の展開、現代科学の展開、科学と技術、近代科学の系譜、近代科学の系譜、科学と技術、自然科学史を学ぶ、自然科学史を学ぶ、自然科学史を学ぶ、自然科学史を学ぶ、科学と文化、科学と文化、科学と技術、技術と社会、科学と文化、技術と社会、科学と技術、科学と文化、科学技術社会論、M経営史研究 I 【関西学院大学】情報メディア史 【京都外国語大学】サイエンスコミュニケーション 【京都精華大学】科学史、科学の歴史 【九州国際大学】地域学 A・B 【九州産業大学】科学・技術史、科学・技術史 【慶應義塾大学】現代物理学概論、哲学、科学の哲学、科学技術思想史、歴史学 【工学院大学】近代科学の成立、科学と社会、科学思想 B 【国際基督教大学】科学史、科学哲学 【芝浦工業大学】科学技術史、科学技術と社会 【昭和女子大学】科学史 【椋山女学園大学】数学史 【成城大学】科学史、European Studies 【専修大学】科学と社会の歴史、教養テーマゼミナール（動物と歴史） 【大正大学】生物学史 【筑紫女学園大学】日本文化論：〈科学技術〉からみる日本近代 【千葉商科大学】現代技術論 【千葉工業大学】科学技術史、科学技術史 【中央大学】現代テ

クノロジー論、技術論、情報処理 1、情報処理論 A1 【中部大学】理科教育法、理科概論 B (中学校化学) 【東海大学】テクノロジーと社会、構造と変化 【東京海洋大学】科学史、技術史、科学技術論の諸問題、科学技術論、科学技術社会論 【東京外国語大学】医学・生命科学の思考方法、科学・技術・社会とエコロジーの思考方法 【東京工科大学】科学論 【東京電機大学】科学の社会史、技術の社会史、科学技術と現代社会 【東京都市大学】科学技術と社会 【東京農業大学】生物データ解析概論 【東京薬科大学】科学史 【東京理科大学】現代技術論、科学論、科学史、現代技術論、科学史 1、科学史 2、科学史 1、現代技術論、科学技術と社会、科学史 2、科学史、技術論、生命科学技術論 【東邦大学】科学史 I・I I 【東洋大学】技術と産業の社会史、科学技術倫理、哲学 【同志社大学】ビッグビジネス論、科学史・科学論 1-52、科学史・科学論 1-54(科学技術の進歩が引き起こした社会的問題)、科学史・科学論 1-53、科学史・科学論 1-1(暦法史と占星術の東西)、科学史・科学論 2-2(東西宇宙観の変遷)、科学史・科学論 1-2(望遠鏡以前の天文学)、科学史・科学論 1-52(暦のしくみと歴史)、科学史・科学論 1-4(科学と社会の関わりを考える)、科学史・科学論 1-5(科学と社会の関わりを考える)、科学史・科学論 2-3(科学の過去と未来)、科学史・科学論 1-51(古代の数学)、科学史・科学論 1-55(古代の数学)、科学史・科学論 1-3(望遠鏡以前の天文学)、科学史・科学論 2-1(科学と文明) 【同志社女子大学】自然科学史 【南山大学】科学技術論 【日本獣医生命科学大学】獣医学史 【日本大学】自然科学 I、自然科学 II、哲学 I、科学思想史、科学史、科学技術史 A・B、科学史、科学技術と社会、地球科学 【広島工業大学】科学技術史 【武蔵野美術大学】科学技術史 【明治大学】歴史における科学、社会の中の科学、自然科学史 B、科学と技術の歴史 II、科学と技術の歴史 I、自然科学史 A、経営技術論、技術戦略論、科学史特論 【立教大学】科学と社会、数学史、数学諸論 3、数学の世界、数学諸論 4、科学技術論、大学と科学技術 【立正大学】自然科学論、生物学の歴史 【立命館大学】科学と技術の歴史、教養ゼミナール、科学と技術の歴史、科学と技術の歴史、科学と技術の歴史、科学・技術と社会、科学・技術と社会、科学・技術と社会、科学・技術と社会、科学と技術の歴史、科学と技術の歴史、科学と技術の歴史、科学・技術と社会、科学・技術と社会、科学・技術と社会、技術経営論、技術革新論、産業技術論、技術革新論、生命論 I 【酪農学園大学】理科教育法 III、理科教育法 IV 【早稲田大学】科学史、科学・技術の社会史、日本科学技術史、科学技術政策論、科学社会学、技術倫理、科学技術と現代社会、科学思想史、科学思想史、Pure and Applied Physics Seminar 【放送大学】生物学の歴史と課題

5.4 高等専門学校

【木更津工業高等専門学校】技術と社会 【久留米工業高等専門学校】科学技術史、技術哲学、工学倫理、環境倫理学、地球環境と現代生物学 【都立産業技術高等専門学校】技術史、科学技術史、特別講義 【東京工業高等専門学校】科学技術史、技術史調査 【徳山工業高等専門学校】技術者の倫理、技術発達史論

5.5 その他

【東洋公衆衛生学院】科学史

以上